

主日の福音 2025/12/28(No.1391)

## 聖家族 (マタイ 2:13-15,19-23)

イエス様を囲んで自分に託された務めを果たせば聖家族



ご降誕日中のミサ説教でちょっと話したのですが、クリスマスまでの1ヶ月、できるだけ長く告解場に座るように、特に助任司祭には念を押していたのですが、日中のミサ当日、もしかしたらと私が告解場に座ったら二人やって来ました。幼子イエス様は、まだひとことも話すことが出来ませんが、それでも、日本風に言えば「目で合図をして」司祭を動かすことができる方だとあらためて思いました。

それと同じように、聖家族はヘロデの魔の手を逃れるためにまずエジプトに避難するわけですが、その際も、ヨセフとマリアを励まし続けたのは、御父であり、御子イエスであり、聖霊であったのだと思います。主の天使の言葉は御父のことばであり、旅の途中の幼子イエス様の存在はヨセフとマリアを動かす力の源であり、数々困難が待ち受けていたであろうエジプトまでの旅を聖霊が見守ってくださったのです。

ところで、エジプトでの滞在期間はどれくらいだったのでしょうか。おそらく2年から3年だったと思います。ヘロデが占星術の博士たちからだまされたと知って、ベツレヘムで二歳以下の男の子を殺害したとあり、またヘロデはその後亡くなりましたから、おそらく3年は滞在していたのでしょう。

ユダヤとエジプトは、別の国ですが、言葉の問題は無かったのでしょうか。現在宝亀教会に赴任しておられる湯浅神父様に尋ねたところ、エジプトもパレスチナも当時はローマ帝国が占領していて、広大な領地を統治するために、ある程度言葉もギリシャ語が通用し、一般の人々はアラム語を話していたようだから、特に問題は生じなかったのではないかと、ということでした。

ヨセフ様もマリア様も、二カ国語、三カ国語話せたのだろうかと思像を膨らませましたが、そこまで無くても幼子イエス様を守り抜くことは出来たようです。かつてはヤコブの末っ子ヨセフが兄たちの悪意でエジプトに売り渡され、モーセによってエジプトを脱出するまで留まっていますから、エジプトはパレスチナの人にとって不安を抱かせる国では無かったのかも知れません。

さて前置きが長くなりましたが、幼子イエス様は、預言を実現できるお方です。人を動かし、歴史を動かし、世界を動かします。それは幼子の状態であっても変わりはありません。ただ、今回のように、預言の実現のために、ヨセフとマリアの協力を必要としていたかもしれません。ヨセフとマリアがいなければ、エジプトへの避難と、エジプトからの帰国は難しいです。あくまでも幼子ですから。

私たちに当てはめると次のように言えるのではないのでしょうか。幼子イエスが預言を実現するために、行動を起こすために、今は私たちの手を借りようとしている、ということです。たとえば、勇気を持って信じていることを行動する。そのために、堅信を受ける人々を必要として

いる。エジプトに行っても、エジプトから帰国してもイエス様は神の子として変わらず神様ですが、ずっと見守り続けるヨセフ様とマリア様の配慮を必要としておられました。

堅信を受ける一三人の人たち、また新成人の六人、更には二十歳の集いを迎える十四人の人たちが、県外に出でも、五島市に戻ってきても、「私たちはイエス様が何をしたいか、いつも耳を澄ませていて、いざとなったら動きます」というところを見せてくれたらなと思っています。

聖家族は、今は手足を使って指示を出さなくても預言を実現する力のあるイエス様を見守り続けるヨセフとマリア様とで成り立っていますが、イエス様を見守り続ける皆さんが加わることで、皆さんの中でも聖家族が成り立っている。私はそう考えています。

私がときおり「福江教会家族」と言うことがありますが、それは御聖体のイエス様を中心にして、ここに集まり、ここから派遣されていく共同体のことです。血のつながりではなく、イエス様と共に歩む、イエス様のそばを離れない。そのことが家族の絆を形づくっているのです。この中に参加している時、私たちも聖家族の中に加わっているのです。

「聖家族は模範としてあるだけで、私たちとは縁遠い」そう考えているかもしれません。縁遠い模範にどんな意味があるのでしょうか。私たちにとって馬小屋の聖家族は身近な模範です。イエス様を囲んで、ヨセフ様とマリア様が自分に出来ることを全力で果たします。それは私たちにとっても同じことです。イエス様のために私が出来ることをしっかり果たす。私たちもその中で、聖家族の一員に加わります。

ところで、**2025**年聖年も1年を過ぎました。浦上教会では長崎教区としての閉幕式ミサが午後**2**時から行われます。巡礼指定教会をすべて巡礼した方々の何人かは、このミサに与ってその努力をたたえてもらうことになっています。私たちもこのミサで聖年を終えることにします。たくさんのお恵みが与えられたことを記憶にとどめつつ、拝領祈願のあとに垂れ幕（バンナ）を降ろすことにします。

神の母聖マリア(ルカ 2:16-21)